

昭和58年度評議員会の記録

本年度の評議員会が理事、監事の出席のもとに、次のとおり開催された。

日時 昭和58年12月19日(月) 17:30~18:40

場所 ホテル竹橋会館

出席者

(評議員) 磯野謙治, 小林寿太郎, 清水逸郎, 末広重二, 高橋浩一郎, 畠山久尚, 増澤譲太郎, 安井 正 (アイウエオ順)

(地方理事) 関口理郎, 山元龍三郎

(監事) 荒川正一

(常任理事) 岸保, 松本, 嶋村, 松野, 竹内, 河村, 増田, 村山, 田宮

議事

(1) 当学会の事業、活動について

ア. 岸保理事長から、次のとおり、当学会の事業の経過、活動状況について報告された。

- ① 国際交流委員会を発足させて、時代に添って、国際学術交流を促進していくことを図っている。
- ② 学会の財政が苦しい状況となり、機関誌の維持、拡充、事務局体制の確立、支部活動の強化、国際交流の促進化などの事業、活動を行うのに、困難な事情に至っているため、学会費の値上げを検討している。
- ③ 昨春の大会に、会員から、学術会議の改革問題で緊急提案が出されるなど、学術会議問題が重要な問題となっていたが、新しい法律の具体化に伴って、色々の問題が出てくると思うの

で、他の学協会などと協力対処していく。

- ④ 気象学の長期計画について、その経過と評価がまとめられた。これをもとに、今後学会の充実に図っていく。
- ⑤ 気象庁関係の学会退会者が増えるおそれもあるので、会員の増加をどのようにして図っていくか。また、これに関連し、「天気」をどのような内容にしていくかなどを議論している。

イ. これに対し、各評議員からは、

- ① 値上げの点では、物価上昇、財政赤字の補てん、新規事業の実行とに分けて、充分に検討すること。

「天気」と「気象集誌」とは、財政面で分離したらどうか、値上げ分の定常的経費と新規事業への振り分けは、どのようにするかなどの意見が述べられた。

- ② 国際交流の点では、国際交流のための基金を、どのようにして作るかが大切であるなど、積極的に推進を図る必要が述べられた。
- ③ 「天気」の内容の問題では、応用気象の面の不足、特に他にも気象関連の学会が出てきていることから、これらとの関連を考慮することの必要性。解説については、内容が少し高度になっているのではないか。などの意見が述べられた。

(2) その他

学会のあり方、運営等について、いろいろの角度、分野にわたって、貴重な意見が寄せられた。